

分泌低下型マイボーム腺機能不全に対する Intense Pulsed Light 治療の有効性に関する多施設研究

英文タイトル

The efficacy of IPL treatment on obstructive meibomian gland dysfunction. A Multi-center study.

ショートタイトル

多施設における IPL の効果

有田玲子 (LIME 研究会, 伊藤医院), 溝口尚則 (LIME 研究会, 溝口眼科), 森重直行 (LIME 研究会, 大島眼科病院)

目的: 分泌低下型マイボーム腺機能不全(oMGD)はドライアイの主因であり患者数も多い。oMGD は治療抵抗性の難症例も多く, 新しい治療法が望まれている。Intense Pulsed Light (IPL) は幅広い波長のキセノン光を短時間に照射する機器で, 近年, 国内外から有効性の報告が多数なされている。今回私たちは, 国内の3施設で難治性 oMGD 患者に対し IPL を施行し, 有効性を検討した。

対象と方法: 対象は 2017 年 3 月から 9 月までに伊藤医院 (さいたま市)、溝口眼科医院 (佐世保市)、大島眼科病院 (福岡市) を受診した難治性 oMGD 患者。IPL 照射 (M22) を 2~3 週毎に 4 回~8 回施行した。評価項目は自覚症状スコア (SPEED), 油層動態グレードと非侵襲的涙液層破壊時間 (NIBUT)、眼瞼縁所見, 涙液層破壊時間 (BUT), 角結膜上皮障害スコア, マイバムグレード, マイボスコア, シルマーテスト。検査は施行前, IPL 施行完了 1 か月後とした。

結果: 難治性 oMGD 患者は 34 名 62 眼 (男性 15 名、女性 19 名、平均年齢 47.7 ± 16.8 歳) だった。IPL 施行後、自覚症状スコア ($p=0.00008$), BUT ($p=0.000004$), 角結膜上皮障害スコア ($p=0.002$), マイボスコア ($p=0.00001$) は有意に改善した。マイバムグレード, NIBUT, 眼瞼縁所見, 涙液動態グレードも有意に改善した (各 $p < 0.0000001$), シルマーテストは有意な変化がなかった ($p=0.29$)。

結論: IPL 照射は難治性 oMGD 患者に対する新しい治療法となりうる。

(実際の登録は 754 文字まで OK)